

# 2020 東京 きもの女王コンテスト



2019年10月20日、  
日本橋三越本店本館・1階・中央ホールで開催

2019年10月20日、日本橋三越本店「中央ホール」にて開催された東京きものの女王コンテストの模様を2019年度東京きものの女王・佐藤茉理奈さんにレポートをしていただいた。

2019年10月20日、日本橋三越本店「中央ホール」にて開催された東京きものの女王コンテストをもちまして、2019年東京きものの女王の活動任期を無事終了致しました。

昨年のコンテストは中央区「へそ展」との共同開催として晴海アイランドトリトンスクエアのグランドロビー特設会場にて行われましたが、今年は3年ぶりに歴代開催てきた日本橋三越本店での開催となりました。5階まで吹き抜けの中央ホールには、採光天井の下に大理石が張りつめられ、高さ約11メートルの天女像がそびえ立っています。

コンテストが始まると、多くの方々が足を止め、2階や3階から見てくださる方もいました。たくさんの方々が足を止め、2階や3階から見てくださる方もいました。たくさんの方々が足を止め、2階や3階から見てくださる方もいました。たくさんの方々

「東京きものの女王コンテスト」(主催:東京きもの振興会)が日本橋三越本店・本館・1階中央ホール(東京都中央区日本橋室町1-4-1)で開かれた。今年で53回を迎え、伝統のあるコンテストは、きものの消費の多い都市、東京で日本女性美を際立たせる「きもの姿」のN.O.・1を選ぶスペシャルなイベントとして回を重ねてきた。このコンテストの模様を2019年度東京きものの女王・佐藤茉理奈さんにレポートをしていただいた。

た。出場者は100名を超える応募者から事前に書類審査を通過した総勢26名。美しい天女の像が象徴的な豪華な振袖を着た出場の方々が並ぶ光景は壮観でした。皆さん自分らしさを表現する帯の結び方、髪型や髪飾りで、小物の使い方なども工夫されていて、本当に素敵でした。着物は合わせる帯、帯締めや帯揚げ、重ね襟などで、着たときの印象や雰囲気が変わります。出場者の方々のごだわりや個性が素晴らしい出来事なら一人ひとりゆっくりと見せていただきたいと思いました。

審査は、数名ずつ舞台に出てきて、その中から一人ずつマイクの前に立ち、30秒間で自己PR、そして司会者の方からの簡単な質疑応答を行います。ご家族から譲り受けた振袖への思いを話す方や特技を披露される方など、皆さん個性的な自己PRをされていました。もちろん着物に対する熱い思いも共通して感じられました。それぞれの着物には様々な思いが詰まており、ストーリーがあります。そして、またこれら次の世代へと受け継がれていくのだとと思うと、改めて着物というものの奥深さ、魅力を感じることができました。

厳正なる審査の結果、審査員特別賞に坂入百香さん、新田真美さん。そして、2020年東京きものの女王に大石歩



実さん、吉田有沙さん、宇田有佐さん

が選出されました。出場者26名の誰が選ばれてもおかしくありませんでした。が、名前を呼ばれ、再び舞台に登場した女王3名の輝かしい笑顔と着物の着こなしを見て、東京きものの女王にふさわしい方が選出されたと確信しました。表彰式のお手伝いをさせていただきましたが、昨年名前を呼ばれたときの驚きや感動が思い出され、吉田さんにティアラとたすきを受け渡した際は、胸がいっぱいになりました。

東京きものの女王は、一年間もの振興のお手伝いをします。2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。国内だけでなく、グローバルに日本の伝統文化である着物の素晴らしさを発信していただきたいです。私自身も一年間の活動の中で貴重な経験をたくさんさせていただきました。短い期間でしたが、きもの振興に携わることができ、本当にうれしく思います。東京きものの女王の活動を通して得られた経験を活かし、これからも着物が似合う素敵な女性を目指したいと思います。一年間、本当にありがとうございました。

## TOKYO



坂入百香さん

大石歩実さん

吉田有沙さん

宇田有佐さん

新田真美さん

一応募された動機は  
母から、今の時代は着物を着る機会が減っているという話を聞いた事が大きかつては多くの女性が着物を着て参加していました。

そして私は成人式の前撮りで初めて見て、素敵な着物を着る機会が少なくなってしまったことを残念に思いました。素晴らしい日本文化である着物の良さを自らが発信することで、着物がもとと人々にとって身近な存在になって欲しいと思い、応募を決心しました。

**吉田** 私は幼い頃から茶道や日本舞踊など、日本の文化を嗜んできました。そのために私にとって着物はいつも身近な存在でした。

大好きな着物の美しさや、日本の素晴らしい文化の素晴らしさを多くの方に発信していくたいと思い、応募致しました。

**宇田** 来年迎える成人式の振袖を選ぶ際には着物に魅せられ、その時から着物に大変興味を持つようになりました。

2020年は東京オリンピック、パリオリンピックがあり、世界中から多くの方が日本へいらっしゃいます。その際、着物の日本伝統の美を発信することができたら、と思い応募致しました。

一きものに興味を持つようになつた  
きっかけは

**大石** 私は成人式の前撮りで母の振袖を着て実際に、年月を経ても変わらない着物の美しさに感動いたしました。日本文化

の象徴であり、二ひとつが異なる華やかさを持つ着物の魅力に気づき、興味を持ったようになりました。

**吉田** 幼い頃から茶道や日本舞踊など、日本の文化を嗜んできたことがきっかけです。着物は、色や柄、帯などの組み合わせを変えると雰囲気がガラッと変わり、いつもとは違う自分に変身できるところがとても魅力的で、大好きな存在です。

**宇田** 当時、2年後の成人式に着物を着るのが待ちきれずに、少し早いとは思いましたが振袖を選びに行った時です。着物の、美しく華やかな色づかい、意味が込められた繊細な模様やその技法、帯との組み合わせによって雰囲気が変化する表情の豊かさに魅了されました。

一自己PR、将来の夢は

**大石** 私は、高校生の頃から「女性の美」に関心を持つようになります。着物は、そのものの色の鮮やかさや柄の美しさだけなく、日本女性の美しさがより際立つことに大きな魅力があると感じています。

また、私は大学で化学について学んでいますが、将来はその知識を生かして女性の美容に貢献したいと思っています。学業ときものの女王の活動を両立させて、自分自身がより輝ける女性となり、着物の魅力を世の中に発信していくように努力して参りたいと思います。

**吉田** これから1年間、茶道や日本



舞踊などの経験を通して培った立ち居振る舞いで、着物を魅力的に着こなし、着物の美しさ日本文化の素晴らしさを多くの方々に発信していくように精進してまいります。よろしくお願ひいたします。

**宇田** 私は理系女子として現在早稲田大学で学びつつ、油絵を描いたりピアノを弾いたりと充実した毎日を過ごしています。将来の夢はまだ模索中ですが、今回「2020年東京きものの女王」に選んでいただいたことを機に少しずつ明確にしていきたいと思います。

これから活動を通して、私が着物に初めてふれた時の感動を多くの方々にお伝えしていくよう精進していきたいと思います。